

関中学校だより



関中学校HPにアクセス

※ 第9号 ※

令和6年6月21日発行

亀山市立関中学校

文責：堀内

「竹あかり」製作をしました

6月11日(火)、竹あかり作家の川渕皓平さんに、竹あかりの作り方を指導いただきました。川渕さんは、21歳の時に見た竹あかりに感動し、「竹あかりを日本中に広めたい」という夢を持ち、その後18年間竹あかりの製作を続けているそうです。今では海外まで活動の幅を広げてみえます。講演会では、地球一周をした自分の経験、今までのいろいろな人との出会いから得たことを生徒たちに伝えてくれました。「人は違って当たり前」「得意なことを伸ばし苦手なことは助けてもらう」「失敗した人を責めない」「夢は口に出したら叶う」など、生徒たちがこれから生きていく上で必要なたくさんのメッセージを伝えてくれました。

製作では電動ドリルを使って、竹に穴をあけました。生徒たちは電動ドリルの使い方を教えてもらい最初は恐る恐るドリルを使っていましたが、製作を終えるころには上手に使いこなしていました。それぞれの個性のある作品が出来上がりました。生徒が製作した竹あかりは、8月11日(日)の亀山市納涼大会で展示されます。ぜひ、生徒たちの作った作品を見に行ってください。



「竹あかり」製作を体験

【亀山】亀山市は十一日、同市関町新所の市立関中学校で、同校二年生四十四人を対象に、夏の風物詩「亀山市納涼大会」(八月十一日)で展示する、竹に細工を施し、明かりをともし「竹あかり」の製作体験を実施した。市内三中学校の二年生を対象に亀山中は五月二

部は自由な発想で、五・七・五調の川柳を詠んで」と呼びかけている。問い合わせは同創造グループ電話05955(96)12231へ。



十三日に、中部中学校は同日二十四日に実施し

今年夏の納涼大会の会場内に展示する。この日は、竹あかりの空演、製造販売を手

た。三中学校二年生計四百八十二人が一人一点製作した「竹あかり」は、指導。生徒らは、直径約十センチ、高さ約三十センチの竹に、流れ星やリボン、ハートなど思い思いのデザイン(二)の絵柄が見えるように、電動工具で穴をあけた。二年生の梶谷悠貴さん(三)は「丸で大きな竹を作り、その中に小さな丸をいっばい描いたデザインにした。穴をあけるのが気持ちよくて楽しかった」といい、「納涼大会の展示会場で自分の作品を見るのが楽しみ」と話していた。

6月12日(水)伊勢新聞



生徒の作品です。当日灯りがともされるのが楽しみです。

3年生が修学旅行で見た竹あかりです。川渕さんの仲間が製作したものです。

今年初めての定期テストがありました

テスト期間に合わせて、関中学校区でメディアコントロール週間を実施しました。家庭でのルールを決めていただき、取り組みへのご協力ありがとうございました。テスト前には「質問タイム」を実施し、放課後の時間に学習をしました。授業や家庭学習でわからない問題があり教えてもらいたい人、教科担当の先生に解き方を見てもらいたい人が積極的に参加して理解を深めました。生徒たちからは「先生に教えてもらってよく分かった」「友達と問題を出し合ったりして集中できる」という感想があり、質問タイムを利用してしっかり勉強ができたようです。

また、19日(水)～21日(金)の3日間期末テストが実施されました。1年生にとっては初めての定期テストになりましたが、集中して真剣に取り組んでいました。テストは、学習の理解度を確認するためのものです。来週から、テストが返却されますが、結果を見て一喜一憂するだけでなく、理解できていないところなどをしっかり把握し、できなかった問題が分かるまで確認して下さい。



質問タイム(数学)の様子



生徒同士で教えあいながら自主学習



期末テストを受ける様子(1年生)

まいにちも かね タブレットを毎日持ち帰っています

亀山市では、タブレット端末持ち帰りの学習の更なる習慣化に向けて、毎日タブレットの持ち帰りをしています。各教科の課題に取り組む、e ライブラリや CBT に取り組む、調べ学習など様々な学習で利用できます。授業でもタブレットを使用するので、学校に持っていくことを忘れないようにしましょう。また、充電は家庭でもお願いします。タブレットは大切なものですので、破損に十分気をつけて、ルールを守って正しく使しましょう。学習以外の目的では使わないようにしましょう。